中國省別全志

55

日本東亞同文書院 編

線裝書局

日本東亞同文書院 編

中國省別全志

（第五十五册）

綫裝書局

第五十五册

第九卷　青海省西康省（一）昭和二十一年　一九四六年　東亞同文會　……一

第九卷

青海省 西康省（一）

昭和二十一年
一九四六年
東亞同文會

此为试读,需要完整PDF请访问: www.ertongbook.com

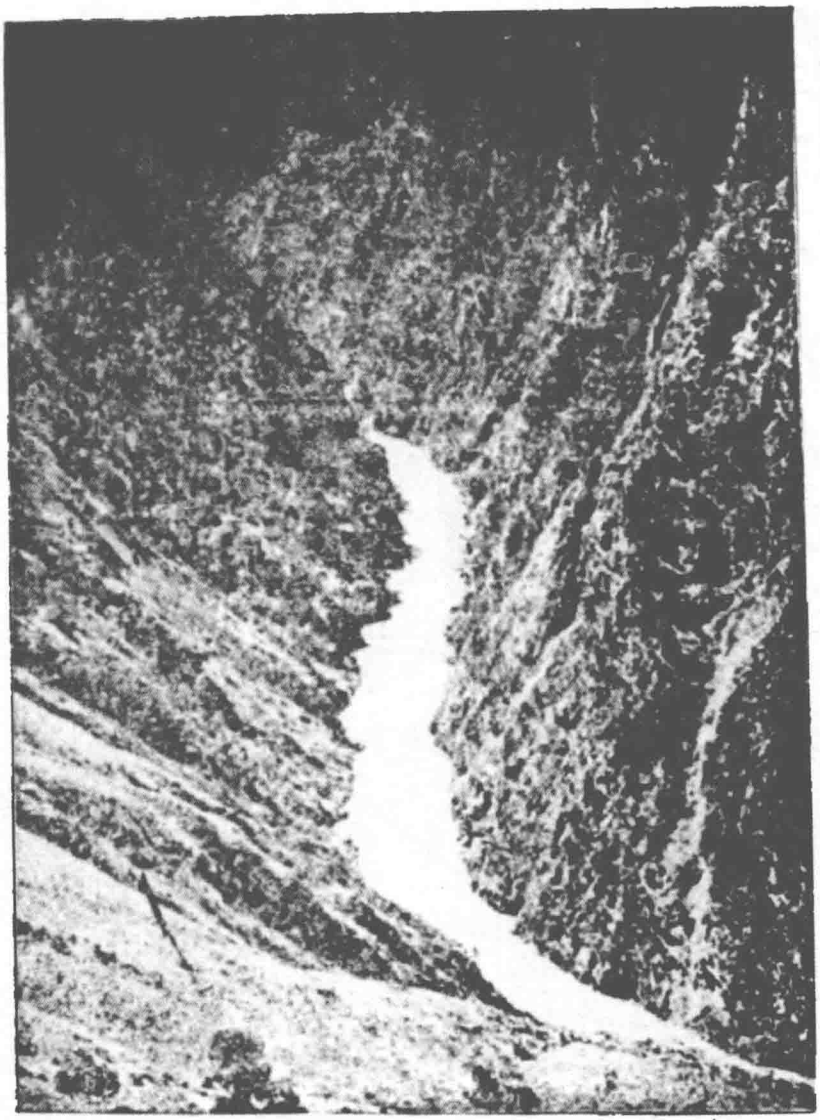
支那省別全誌刊行會編纂

新修支那省別全誌

第九卷

青海省
西康省

東亞同文會發行

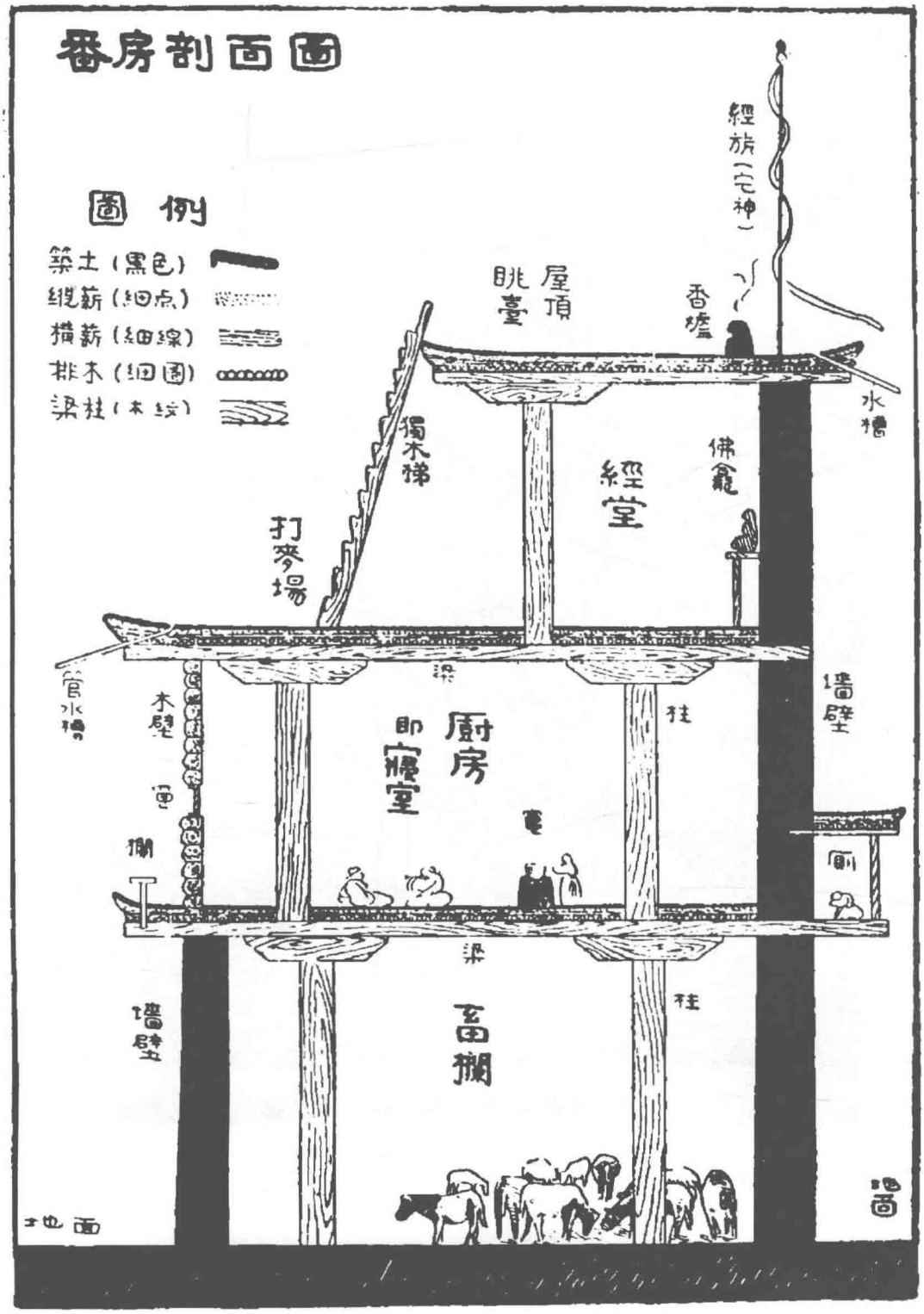


黄河の峡谷（青海省）

大金谷は黄河北曲の左岸に在り、山は紅砂岩より成り水に沖蝕せられて多數の洞窟を成し、洞内には冰川が下に注いでゐる。

大金谷の洞窟及冰川（青海省）

（省康西）族藏西木喀



此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

凡例

一、現在重慶政權が西北開發の中心對象とし、或はその前衛省たらしめてゐる諸省中、新疆・甘肅・寧夏・康西各省の上梓を終り、今茲に第九卷―青海・西康兩省を一纒めとして刊行することにより西北邊疆諸省の上梓を完了した。

一、青海・西康兩省は支那本部と新疆省・西藏との中間に位して自然的にも、文化的にも、その他民族的及び政治的にも前記二地域の緩衝地帶を爲して兩者著しき共通點を有する、蓋し兩省を一書に纒めた所以である。

卽ち青海・西康兩省はその地理的位置から古來西藏系種族の根據地を爲し爲眞西戎の域に屬する。斯くて青海省は今や殆ど西藏から切離されて考へらるゝに至つたとはいへ、嘗ては西藏民族の支那本部進出基地の一として大きな役割を演じた西羌（卽ち西藏系種族）の根據地であり、西康省はまた漢代西羌の住地であつた。從つて兩省の住民は、現在はその歷史的事情によりて著しく複雜な分佈狀態を呈してゐるが、今尙ほ西藏系種族の多きこと既述の如くであつて、青海省に於いては北は蒙古族を主として西藏族がこれに雜居し、西には回族、東には漢族が進出してこれに蒙古族と西藏族（番族）とが混住する狀態であるが、省の南部一帶は純粹の西藏族を主として居り、省全域を通じて人口の上では西藏民族が最も優勢である。西康省も亦住民の複雜なること青海省に劣らず、省の南部、雲南省境に近き方面には少數ではあるが印度支那系の種族（倮㑹・倮々・白夷・苗瑤等）が住み、且省內には僅少の西藏化せる蒙古族が棲居してはゐるが、人口の上ではこれまた藏族（廟代以後西

蔵本土より移住）及び番族（唐代以前より原住する土着民）が大部分を占め、漢族はその次に位してゐる。

斯くの如く青海・西康両省は、その地理的位置から古来西蔵系種族の根據地を爲しつゝも、青海省にては移住し来れるトルコ系種族及び蒙古族との摩擦が甚だしく、宗教もこれに伴れて喇嘛教・回教が廣く行はれて漢・回・蒙・藏諸系の種族が雜居してゐるが、而も支那の支配的立場を把握する漢族居住者は比較的少くして省内の政治・軍事・經濟上に於ける勢力が薄弱なるため政治・軍事方面では漢回がその權を掌握し、人口及び産業の點では蒙・藏系の種族が非常に優勢を示すが故に、民族關係からの青海省は西藏及び蒙疆の動向により重大なる影響を受ける立場に置かれてゐる。また西康省では漢藏二民族の抗爭止まず、これに英吉利帝國の勢力が絡まりて所謂西藏問題の中心地となり、漢藏兩族の融和問題に加ふるに西番族の處理問題等、民族問題は實に西康政治の癌と稱せられてゐる。

その他國際關係並に國防上に於ける問題も複雜であるが、本文の通譯に譲りて玆に贅言することを止める。要するに青海・西康兩省の持つ重要意義は國防・交通・民族・産業の四大問題に歸着すると謂つてよい。

三、本書各編特に第二編人文中に記述せる青・康兩省の原住種族については諸種の說が行はれて直ちにこれを決定し得ない、三危の說についても亦同樣である。從つて本書に在りても各筆者の引用せる原據を異にするに隨ひ說く所必ずしも一定せず前後時に不齊一の誹りを免れないが、これは專ら原據の尊重に努めたが故である。

また西康省に於いて茶は雅屬の重要生産品であつて近年印度茶の壓迫を受くるまでは西藏より來る藥材・皮毛類は概ね雅屬所産の所謂邊茶と交換せられ、その産額は民國二十七年度尙ほ約三三萬包（每包一六斤）と稱せられた。從つて邊茶市場の盛衰は省の財政上にも尠からざる影響を及ぼすもので本書に於いても重要産業資源の一として輕視すべからざるものであるが、これに就いては第二卷四川省に於いて四川省茶業の一般が既述

せられ、且本書に在りては第五編第二章第二節西康省の商業・貿易に於いて特に茶の取引につき詳述せるを以て産業資源論中にての記述を省略することゝした。

なほ第七編は歴史のみに止め、名勝・古蹟は主として第三編都市に渡りてこれが記述を省略しその重複を避くることゝした。

四、本書の編纂に當り青海省に關する部門は一部小口左郎氏の執筆を得、且又一小部分ではあるが山田三郎氏の援助を得たる（農産—第四編第一章第一節第二款、水産—第四編第四章第一節第一款魚産、財政金融及度量衡—第五編第三章第一節第二款乃至第三款の全部または一部）を除いては編輯長に於いてその執筆を終つた。

更に西康省に關する部門の編纂に携はつた編輯員及びその擔任部門は左の如くである。

編輯長		馬場鍬太郎
編輯擔任	第一編 自然環境（地理的特相—概觀・氣象）	村上計二郎
同	同 （動植物）	村田懋麿
同	第二編 人 文（沿革・現行行政・民俗と文化—人口・住民・宗教・社會事情）	土田正治
同	同 （教育及學術研究機關）	馬場鍬太郎
同	第三編 都 市	村上計二郎
同		吉本 仁

同　第四編　産業資源（農産・林産・畜産・水産・鑛村）　山田三郎
同　同　（鑛産資源）　馬場鍬太郎
同　同　村上計二郎
編輯擔任　第五編　經　濟（工業）　山田三郎
同　同　（商業・貿易）　馬場鍬太郎
同　同　山根權二
同　同　（財政・金融・度量衡）　馬場鍬太郎
同　同　馬場鍬太郎
同　第六編　交通附郵政・電政及航容　山根權二
同　地圖・圖版　渡部安五郎
同　索引　前田國江
同　同　木之村　勇

尚ほ東亞同文書院大學五味一教授及上海自然科學研究所研究員尾崎金右衛門氏並に外務省囑託小口五郎氏に委囑し、その執筆を得たるは本刊行會の深く多とする所であつて、左にその擔當部門を掲げて深甚の謝意を表する。

第一編　自然環境（第一章第一節・第二節地勢及地質）　尾崎　金右衛門

第一編　自然環境（第一章第一節青海省の地理的特相第一款概觀）（第二章第一節青海省の氣象）　小口五郎

第二編　人文（第一章第一節青海省の沿革）（第二章第一節青海省の現行行政）（第三章第一節青海省の民俗と文化）　小口五郎

第三編　都市（第一章第一節省都西寧）　小口五郎

第四編　產業資源（第三章第三節青海省の畜産資源）　小口五郎

第七編　歷史　五味一

五、本書編纂資料の蒐集に關しては在南京・行政院文物保管委員會圖書專門委員會岡崎峰太郎・梅田潔兩氏及び上海・中支那振興株式會社調査課員馬場滋氏の勞に負ふ所多く、更に蒐集資料の整理その他については岩城正雄・渡部安五郎・片田隆吉・前田國江・木之村勇・對馬きみ子諸氏の努力に俟ち、また校正に關しては前田國江・木之村勇・牧田公雄の諸氏に多大の勞を煩はせり。

なほ地圖作製は渡部安五郎氏等らこれに當り更にこれが製版に際しては、その他の圖版と共に星野寒吾氏の勞に俟つところ尠からず、茲に併せて謝意を表する。

昭和二十年一月

東亞同文書院大學名譽教授

編輯長　馬場鍬太郎

後記

本第九卷青海・西康省は昨廿年春既に印刷を完了せるが、五月末製本工程中に戰火を蒙り全部焼失の厄に遭へり、當時その再刊には著しく困難なる狀勢にありたるも本誌の使命に鑑み、總務委員會に於てこれを決行することゝなり、幸ひ本會分室に疎開し安全なるを得たる紙型を活用し、印刷所の機能恢復を待ち、更に聯合軍最高司令部の檢閲を經て再印刷に着手し、印刷所の好意的努力により漸く出來するに至れり。

既刊書に比し定價の相當割高となれるは全く用紙、印刷費、製本工賃等の暴騰により已むを得ざるものなるが紙型の殘存と手持資材の使用によりて時價の半額程度に止め得たり。なほ地質圖及び附錄地圖は時下莫大なる製版費と長時日を要するため割愛することゝせり、幸に讀者並に筆者の御諒恕を請ふ。（村上計二郎）

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com